



急増する「老舗企業」の倒産

業歴100年以上を有する「老舗企業」の倒産が急増しています。2024年は145件発生し、前年の96件から1.5倍に急増しました。リーマン・ショック時の2008年（120件）を上回り、過去最多を大幅に更新するものです。

日本全国には老舗企業が4万5284社存在しており（2024年時点）、「世界の老舗企業の約半数を占める」との調査結果もあります。数々のリスクイベントを乗り越えてきた姿やその経験は、国内外を問わず、持続的な事業存続に向けたケーススタディとして語られることも少なくありません。

寛永元年創業のそば店「大久保西の茶屋」

江戸時代初期の寛永元年（1624年）創業とされる老舗そば店「大久保西の茶屋」（長野県）は、昨年9月に事業を停止し、自己破産申請の準備に入りました。同社は長野市戸隠地域に本店を構えるほか、市内にそば店3店舗、とんかつ店2店舗を展開。生そばや乾そば、そばおやき（長野県の郷土食）、そば茶などの物販も行ない、2004年2月期には年売上高約3億1000万円を計上しました。

しかし、小規模な業容で近年は厳しい経営が続くなか、2020年には新型コロナウイルスの感染拡大が直撃。このため、不採算店の閉鎖などで立て直しの努めましたが、存続店舗の収益悪化に歯止めがかからず資金繰りは悪化を続けました。2023年3月には本店のみの営業に事

業を縮小していましたが、赤字体質から脱却できないまま、約2億円の負債を抱えて昨年9月には事業継続断念に至り、創業400年の歴史に終わりを告げました。

「物価高」「後継者問題」が最後のトドメに

2024年に倒産した老舗企業145件を業種別にみると、「小売業」が43件でトップとなり、「スーパーマーケット」（5件）を筆頭に、「百貨店」（2件）を含めた大型商業施設が相次いで姿を消しました。さらには、「呉服小売」（4件）、「料亭」（3件）といった“昔ながらの業種”の倒産も目立ちました。

「製造業」（42件）も高水準で続いています。郷土料理や加工品などを手がける「水産食料品製造」（4件）のほか、「清酒製造」（4件）、地元の銘菓を扱う「生菓子製造」や「米菓製造」（各3件）なども目立ち、この結果、小売業と製造業の2業種で全体の約6割を占めました。

長い業歴は当該企業が市場で生き残り続けた証しであり、業歴100年を上回る「老舗」というブランド力は大きな強みを持ちます。ただその一方で、老舗企業は小規模事業者が多くを占めており、そのなかには日本の伝統産業や地域に根差した地場企業も多数含まれています。

足元で深刻化している「物価高」や「後継者問題」が最後のトドメとなるケースも増えるなか、今後も「老舗倒産」は相次ぐことが予想されます。



ないとう おさむ

2000年に帝国データバンク入社。本社情報部、産業調査部、東京支社情報部、横浜支店情報部長、情報統括部情報取材課長を経て、23年10月より現職。入社以来一貫して、倒産企業の取材、倒産動向のマクロ分析を手がける。専門は、倒産動向分析、企業再生研究。